

# 國民幼稚園を日ごして

倉 橋 惣 三

小學校が國民學校になる時は、幼稚園も國民幼稚園にならなければならない。こいふよりも、もつゝ適確には、日本の國民普通教育を施すところが國民學校である以上、日本の就學前保育機關は國民幼稚園であるのである。

何故に小學校を國民學校さらためるか。勿論、名稱の改正が主點ではないが、小學校令の改正の出發と結論と、從つて當然その改正内容實質の中心精神とが、此の名稱に於て、最もよく表現せられるからに他ならない。「皇國ノ道ニ則リテ普通教育ヲ行ヒ國民ノ基礎的練成ヲナス」を以て目的とする限り、それは對象の普遍性からいつても、目的の究極性からいつても、眞に國民學校といはるべきものである。而して、この國民學校に前驅する就學前保育は、全く同じ意味で、設置の出發と結論と、その當然の内容實質の中心精神に於て、國民幼稚園である。「皇國ノ道ニ則ル」ものであり、「國民ノ基礎的練成」に、より基本的に參するものである。

従來の我國の幼稚園が、この皇道精神と國民練成の意圖の外にあるものでなかつたことは、従來の我國の小學校がそうであつたことである。しかも、小學校が國民學校ならなければならぬ同一の理由は、幼稚園にあるといつていゝであらう。教育の強化は意識の強化により、自覺の焦點の聚約による。單なる幼稚園と國民幼稚園との差も亦、そこにあり、そこが大切なのである。

單なる幼稚園といふ用語は意をつくさないが、幼稚園は小學校に比し、確かに二つの點で、觀念上の特色があつたといふ見られ得る。一は、フレイベルに創まるこいふ、起原觀念の強さであり、二は、學校教育以前の愛育機關といふ、人道感情の豊かさである。而して、この二つは、それ自らに於て、何等の誤りも不都合もあるものではない。確にフレイベルに創案せられ、今でも尙彼れに學ぶべきものが多くある。又、確に兒童愛を以て豊かなる推進力とすることがあつて、それ

なしに保育は行はれないといつていゝ位でもある。即ち、幼稚園そのものとして、この二つの觀念上の特質を排すべきではない。しかし、これは、幼稚園の觀念であつて、これだけで日本の幼稚園は生れない。日本の幼稚園は、日本國民練成の教育の第一段階を受持たうとする、國家的精神からのみ生れる。この精神なしには、たゞ幼稚園といふ施設方法を試みるに止まつて、日本の幼稚園の特性の自覺に稀薄なるところなしとしない。幼稚園の動機が心理的、人道的、社會的方面から多く説かれて、國民的必須を感じられることが、聊か弱かつたのも、この故であつたかも知れない。近來に於ては、國民的必須が強調せられ始めたけれども、それは人口問題が國民保健さからの必須に止まつて、國民練成の眞の教育的意義に於て、その必須性を確信せられることがまだ足りないかも知れない。國民幼稚園はこゝに力強く立脚せんとするのである。

國民幼稚園の中心意義以上の如しとすれば、その國民的普遍性も亦、當然の結論である。國民的普遍といふのに二つの意味がある。國民的普及といふことと、國民的無差別といふことである。前者に對するものが、幼稚園義務制の主張であり、後者に對するものが、幼稚園と保育所との關係に關する考慮である。論者はこゝに此の二つの問題に就て、實際的制度技術の論議にまで進まうとはしない。たゞ、大本は明らかである。國民幼稚園の觀念そのものゝ中に定まつてゐる。國民小學校が普及と無差別であると全く同一理由の上に、國民幼稚園はその本質を固持する。幼稚園義務制が即時實現せられると否とに拘らず、その方針は動かない。幼稚園と保育所との從來の社會的多様性は、素より大に周到であり不劃一であるべきであるとして、それが國民就學前教育としての、國家の考慮はごこまでも一元であるを至當とする。官省なり個人なりが、いろ／＼の動機から學齡前幼兒保育に留意し、その留意の出發に基いて、その名を異にし、その管掌を別にし、その結果、形態と方法との多少の相違が、機關そのものとして別種のものさせられるに至つた時代は暫く措く。國民幼稚園は日本の幼兒にとつて、一つあるのみである。

論者は、國民幼稚園の實質から、その普遍性に論及した。しかも、實際問題としては、この普遍性の確認こそ、國民幼稚園の實體的實現である。國民學校と雖も、それがいくら國民的本義を内容實質とすればして、國民の一部分にのみ設けられ、又本質上の差別が行はれたりしたとすれば、それは、決して國民學校ではあり得ない。國民幼稚園も亦、理論上の

主張ではなくて、實現の要求である。

○ この實現のために、當局は、教育審議會の答申を、それに反響する識者の意見をもつて凝視しなければならぬ。教育審議會の第一答申の中から、先づ國民學校を取りあげた以上、その當然の關聯に於て、國民幼稚園が、速かに考慮せられなければならない順序である。

又、國民幼稚園としての考慮は、從來往々その觀があつた如く、幼稚園關係者のみの關心でなく、全教育界の問題でなければならぬ。我國では、さうも、教育界が分れて狭い關心に偏り過ぎる。日本の國民教育の完成のために、問題は就學前から考へ始められることが、教育界全體の常識にならなければならぬのである。

しかし、なんぞいつても、今直ぐ不斷の關心を此の問題に持つ位置にあるのは、幼稚園關係者である。そのわれわれが、苟も、國民幼稚園の理想に、低いところあり、狭いところあり、弱いところあつたりしては、何を以て天下を動かさう。われら同人の間には、そのそれ々の立場から、多少異なる動機を以て此の教育に入つたものもあるであらう。今現に、各種の方向から興味を此の教育に聚注してゐるものもあるであらう。それは皆よろしい。しかし、それだけであつてはならぬ。況んや、それが故に、國民幼稚園の意識を自覺さが、教育焦點の外に霞んでならぬ。性來の兒童愛から來たものも、發達心理の教育原理から來たものも、宗教的人道主義から來たものも、社會現實の憂慮から來たものも、國民體力の尊重から來たものも、皆われらの幼稚園人たるに於て同志である。しかし、その、それ々の觀點は觀點として、日本就學前幼兒のための根本動機に於て一致し、一貫するところがなくてはならない。その一貫一致の動機から生れた國民幼稚園としての本質的同一性の上に立つて、その幼兒の條件に基いて適切なる多様が生れ、その教育者の獨創に基いて活潑なる多様が生れ、異なるところを以て相補ひ、足らざるところを互に學び、日本の幼兒の一人々々に對して、缺くることなく、誤るところなき、就學前の教育を完成させてやればよいのである。それは、施設方法の工夫である。設立の目的は一途に之れ國民幼稚園たることのみが日本の幼稚園である。全國幼稚園關係者は各自の幼稚園を國民幼稚園として充實し、國民幼稚園普遍の爲に相協力し、心を一つにして國民幼稚園を旨として進まうではないか。